

ふれあい

No. 6

編集発行

上越市立春日小学校

信頼は、教育の根っこ

～ 子どもたちが「人を信じてよかった」と思える学校を ～

校長 田邊 道行

人は誰かに支えられ、信頼関係の中で生かされています。学校も同じです。信頼があるからこそ、子どもたちは安心して学び、教師は力を尽くすことができます。

しかし、今年度に入ってから、教員によるわいせつ事案や性暴力など、残念な事件が全国で相次いでいます。教育に携わる者として痛恨の極みです。

こうした事件が続く中で、テレビや新聞などのマスメディアの言葉が視聴者の心に強く残り、まじめに子どもたちと向き合い、誠実に教育にあたる多くの教員までもが疑いの目で見られるようになってしまいました。メディアの影響力は大きく、教育現場にまで及んでいます。このようなときこそ、私たち学校現場が一つ一つの誠実な行動を重ね、失われかけた信頼を取り戻す努力を続けていく必要があります。

信頼がなければ、学校は成り立ちません。保護者の皆様が安心して子どもを預けることができず、子どもたちも先生に心を開けなくなります。学校は本来、「人を信じること」「人を大切にすること」を学ぶ場です。ところが今、一部の地域では、靴箱のいたずら防止のために靴をビニール袋に入れて教室へ持ち込む学校や、校内に監視カメラを設置して管理を強める学校も見られるようになりました。こうした防衛的な対応が広がれば、「人を見たら泥棒と思え」という不信の空気が教育の中に入り込み、子どもたちは「人を信じることの大切さ」を学ぶ機会を失ってしまいます。これは教育にとって、たいへん不幸なことです。

こうした社会の不安や不信の広がりに対して、私たちにできることは、日々の学校生活を誠実に積み重ね、子ども一人一人と丁寧に向き合うことです。信頼は、足元の小さな実践から築かれます。

700人を超える児童が学ぶ当校では、課題のない学級はありませんし、問題が全く起きない日もありません。1年の半分を過ぎようとしている今は、子どもたちの関係性や学級の課題が表面化してくる時期です。当校でも、クラスづくりや運営が思うようにいかない学級があります。しかし、その原因を子どもの側に求めてはいけません。うまくいかないときこそ、教員が「自分の指導に改善の余地はないか」と振り返ることが大切です。とはいえ、学級担任が一人で抱え込んではいけません。学年で協力し、学校全体で支え合う、組織としての取組が、学校を強くし、信頼を育てます。教育活動の透明性を保ち、安全で安心な環境を整え、子どもに丁寧に向き合うこと。その積み重ねが、学校の信頼を支える根っこになります。この時期、改めて学級の課題に目を向けて取り組んでいこうと、教職員一同で気持ちを高めています。

～ そこに「愛」はあるか ～

私が子どもに向き合うとき、常に自分に問いかけている言葉があります。

「そこに、愛はあるか」です。

尊敬している先輩の言葉です。叱るときも、指導するときも、様々な行動をするときも、子どものためを思う“愛”があるかどうかを自分に問うこと。これこそが教育の原点だと考えます。

真の愛とは、子どもの失敗を受けとめ、その先の成長を信じて支える姿勢です。教育現場で「失敗が許されない」という空気が広がることは、あってはなりません。子どもがそうであるように、教員もまた、失敗を通して学び、力をつけていく存在です。大切なのは、失敗を恐れず、誠実に反省し、次に生かすこと。そして同じように、失敗を責めるのではなく、支え合って立ち上がることです。

ただし、決して行ってはならないのが、信頼を失う行為です。それは、誰よりも子どもの心を傷付け、保護者や地域の期待を裏切ることになります。教育は信頼の上に成り立っています。私たちは、子どもたちの信頼に応え続ける存在でなければなりません。

子どもたちの笑顔と成長のために、そして保護者や地域の皆様に安心していただけるように、これからも、愛と信頼に支えられた学校づくりを進めてまいります。そこで、特に次の3つの取組を大切にしております。

【透明性のある学校運営】

教育活動の内容や子どもたちの様子を、わかりやすくお伝えします。学校だよりや学年通信を通して、活動の目的や成果を定期的に発信します。また、行事や授業の記録写真なども、目的と方法を明確にしたうえで共有し、安心してご覧いただけるようにします。

【組織で支える安全な環境づくり】

学校全体で子どもを見守る体制を整えます。複数の職員による確認や点検を徹底し、個人任せにしない運営を進めます。安全点検や情報管理も組織的に行い、全職員が共通理解をもって取り組むことで、「誰もが安心できる学校環境」を守ります。

【信頼を育む日常のふれ合い】

日々のあいさつ、対話、感謝の言葉を大切にし、子ども一人一人に丁寧に向き合います。困っている子に声を掛け、努力をしっかり認める——そんな小さな誠実さの積み重ねが、学校への信頼を育てると考えます。

「信頼」は一日で築けるものではありません。だからこそ、日々の行動の一つ一つが大切です。子どもたちが「先生を信じてよかった」「学校が好きだ」と思えるように、そして保護者や地域の皆様から「この学校なら安心だ」と感じていただけるように、これからも誠実で開かれた学校づくりを進めてまいります。

すまいる

<すまいるの目標>

なかよく

すすんで

さいごまで



すまいる学級は、一人一人に合わせて学習を進めています。よさを認め、できることを増やし、最後まで頑張る力を育てています。学習だけでなく、コミュニケーションスキルの練習もしています。

なかよし交流会 ～10月3日(金)～

春日小学校と高志小学校の特別支援学級の児童が4つのニュースポーツを行い、交流を深めました。順番を守る、失敗しても諦めない、温かい言葉を伝え合う姿が見られました。友達と喜び合い、達成感を味わう体験ができました。



わなげ



ディスクゲッター



バルーン体験

小学校最後の交流会でした。私は、班長としてみんなに声を掛けました。最後のバルーン体験の時、「青と夏」の曲がかかり嬉しくて思わず踊ってしまいました。心に残る交流会になりました。

(児童感想発表より)

かけはし遠足 楽しかったね

春日小では、1年生から6年生でかけはし班を作り、異学年交流をしています。班で一緒に掃除を行ったり、遊んだり、日々の学校生活の中で仲間の絆を深めています。

9月22日(月)に、秋晴れの空の下、かけはし遠足を開催しました。校区の公園や広場を目指し、班長が中心となって元気に歩きました。公園や広場では、「フラフープくぐり」や「エブリバディアップ」に挑戦したり、「だるまさんが転んだ」や「鬼ごっこ」など班で決めた遊びをしたりしながら、みんなで楽しく遊びました。



みんなで一緒に立てるかな



休憩で気持ちよく寝ころんだよ



何秒かかるかな?



みんなで食べるとおいしいね

